

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立安西高等学校	校長	齊藤 賢二	生徒指導主事	乙田 悠介
取組事例名	『下校時における自転車ルール改正』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
自転車を押して下校するという地域との取り決めが長年あったが、生徒状況の変化をふまえて自転車に乗ったまま下校することができるようにするために地域の理解を得る。 生徒自身が自らの行動を律することで自分たちの生活がよりよいものになることを体験させる。	教育目標である「明るく元気に」「他者を思いやり」「何事にも屈せず」「地域社会に貢献する」生徒を育てる。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
- 全校集会で生徒に自転車マナーの現状と改善を伝える。改善点については生徒一人一人が行動に移すことであることを伝えた。(7月21日) - 平和台団地の町内会長と話す機会を設けた。団地内の住民の方の思いを聞き、今の生徒状況を伝え、今後は自転車に乗って安全に降りるようにルールを改善していきたいという要望を伝えた。(10月頃) - 地域に設置されている防犯カメラの映像を見たり、実際の生徒の下校時の様子を見て、その様子を全校集会で生徒に伝えた。(11月頃) - 地域からの苦情の状況を生徒会に伝えたところ、生徒会から下校時のマナーアップをおこなってはどうかという提案があった。生徒会で当番を決め、毎週水曜の放課後に各場所に立ち、声掛けをおこなった。(12月13日～) - 生徒会の生徒が全校集会で生徒に感想や要望を伝えた。(12月20日、1月9日) - 生徒会で自転車マナー向上のビデオを作成し、全校生徒に見せマナーアップを呼び掛けた。(2月7日) - 町内会長と団地の住民の方に来校して頂き、生徒に直接地域住民の思いを伝えてもらった。(2月7日) - 警察から自転車のルールとマナーについての講話をしてももらった。(2月7日) - 教職員による下校指導を輪番で行い、毎週水曜は生徒会と地域住民の方で下校指導を行っている。	生徒にめあてをもたせるために - スライドや生徒会が作成したビデオを見せるなど視覚的に捉えさせた。 生徒の意欲を高めるために - 生徒会で交通安全啓発のビデオを作成し、全生徒に鑑賞させた。 - 生徒会のメンバーで下校指導をおこなっている。 - 地域の方や警察からも思いや注意事項等を話してもらった。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために - 一週間後に再び全校集会を開き、この一週間の様子をフィードバックできていることと改善点を伝える機会を設けた。



3 成果と課題

- 生徒の頑張りが大きな成果を生んだという経験ができたことや、変えたものを守っていくために自主的な活動が生まれるきっかけになったのではないと思う。 - 一部の生徒はルールを守れていない状況もあるので、どのような方法で改善させるか様々な指導方法を考えておく。
